

とりがい秀夫の地域ニュース



南千住 8-3-3-201 電話&FAX (3807) 4811

携帯メール torigaihideo@ezweb

民間軽費老人ホーム来年開設

西尾久 8 【1 月】 町屋 1 【6 月】

現在福祉施設や、事業内容の名称等で一般の方には分かりにくい用語がありますので、始めに名称についておさらいしてみます。

- ★ **特別養護老人ホーム**—最近「**特養ホーム**」が一般的になってきました。介護度 4～5 の程度の重い方、ほとんど寝たきりの方を対象に入所します。一度入所すると、亡くなるまで生活するので入所希望者も多く現在、荒川区は 5 か所、でベッド数は 348 床。待機者は約 700 人。現在新たに 2 か所を建設、計画しており、合わせて 240 床が増えます。
- ★ **軽費老人ホーム**—生活保護者でも入所できる位の金額で入所できる施設。介護の世話にならない単身者。65 歳以上を対象。経費は食事代・4, 5 畳の個室・入浴・常時管理人がついて 1 ヶ月 12 万円位の施設。
- ★ **短期入所生活介護**—**ショートステイ**の名称。自宅で介護している家族の負担を軽減する為の施設。最近日数も長くなり 30 日ほど介護者をあずけることが出来る施設が出てきました。
- ★ **認知症対応型共同生活介護**—**グループホーム**の名称で広がってきました。認知症で介護認定を受けた方々が共同で生活する施設です。

今回報告する件は福祉にかかわる事柄です。西尾久で開設予定の軽費老人ホームは荒川遊園近くで、定員は 9 人。町屋は第五中学校近くで、定員は 20 人。町屋の施設はショートステイが 20 人、グループホームが 27 人の複合施設となります。

私たち自民党は施設整備も限界があるので自宅で介護をしている家族の負担を減らすべきと主張しています。上記の施設内容はあくまでも参考です。

問い合わせは区役所内—福祉推進課

8月の汐入公園の話題

「納涼・汐入まつり」 6・7日

人力車も初登場

応援しよう福島物産品

今や「荒川区の観光ガイド」にも紹介されるほど注目されてきた「汐入まつり」「納涼盆踊り」が今年も行われます。暑さ厳しい中でのイベントとなり、熱中症の心配もありますので、今年は少しでも涼しさを演出するために、大型のプールと大きな氷を準備しました。又、3月の大震災で影響が出ている、福島県桑折町の生鮮野菜、桃も当日販売されます。そのほかにも恒例の「ミニSL」などの遊び。町会各テントでも食べ物や、ゲームなどの販売。舞台では三中ブラスバンド、フラダンスなども出演します。11時からの開園となります。涼しくなった夜は納涼盆踊りが2日間行われます【6・7日】休憩中には商店街の計らいでおいしいスイカなどもふるまわれますので、是非ご参加下さい。



隅田川花火大会は27日 スカイツリーを眺めながらの夕涼み

大震災の影響で一旦は中止となった、「隅田川花火大会」今年は一か月遅れての開催となります。瑞光橋付近からはスカイツリーも大きく見えます。通常は5万人近い見物客が汐入での花火観戦となり穴場スポットです。尚、足立の花火大会は

10月8日（土）に行われます。



昨年の隅田川花火大会の風景

各集合住宅に 50 万円の助成金

災害時、地域住民を受入れ協力が前提

7月25日の震災対策委員会において提出された件について報告します。今回の震災の後、地域における防災力の一層の向上を図るため、以下の要件を満たしている集合住宅において、防災資機材を購入する場合、一定の補助をするものです。集合住宅であれば公営、民間問わず対象となります。一例をあげると汐入地区はすべての建物が対象となります。各建物で行われる役員会で提案したらいかがでしょうか。ちなみにどのような機材が購入の対象となるのか一例をあげてみました。

購入できる助成対象物件

担架・救急セット・メガホン・トランシーバー・発電機・灯光器・チェーンソー・簡易トイレ・寝袋・AED・懐中電灯・バール・ハンマー・バーナー・大型鍋・カセットコンロ・保存食・保存水・その他

問い合わせ—区役所防災課

対象となる建物

- ・ 5階建以上で新耐震基準を満たしている事
- ・ 延べ床面積 1,000 m²以上
認定基準
- ・ 町会に加入していること
- ・ 自治会を設立している事
- ・ 地域と連携して活動する体制が出来ている事
- ・ 緊急時に近隣住民等が建物内に避難する事について、合意していること
- ・ 円滑な避難が出来るよう、建物の出入りが自由に出来る事

各集会室に設置する大型テレビなどは対象外ですが、将来的には可能となるよう、関係部署に要請しています。

【読者の声欄】 アルバイト【登録制】を募集しています

★職種—セルシオ・8人乗りワゴン車の運転手★65歳以下★勤務地—汐入★勤務日—1か月5日位★運転日が不定期的のため、現在アルバイトなどをしている、それ以外に時間が取れる方★経験者尚可★給料・勤務日等の相談は採用時に決定★連絡は鳥飼迄★携帯連絡—090-1201-1297・・連絡後、担当につながります

人工河川「荒川放水路」自然との闘い③

総工費 3200 万円・20 年の歳月を要す

前回のあらすじ

今から 120 年前、明治中頃は荒川区の周辺では毎年のように台風や長雨により洪水が起こり、大きな被害をもたらせておりました。特に明治 43 年の大洪水の被害は大きなもので、当時の金額で 1 千万を超え、被害者も 80 万人にも及びました。この洪水をきっかけとして政府が動き始め、大正 2 年から荒川放水路の計画と実際に掘削が始まります。

荒川放水路の計画案は、当初 5 案がありましたが、最終的に現在の計画案に決定します。岩淵水門から東京湾の河口まで 22 キロに渡っての長さで、500m の川幅。総面積は荒川区と同じ 1000 ヘクタール、(1 町歩) 事業費は 3200 万円、大正元年の国家予算は 6 億円と言いますから、国家予算の 2



畑の土を引き揚げ、22 キロを
汽車で護岸に変えていく作業

0 分の 1、現在に当てはめれば 4 兆円に匹敵する大変な工事です。写真のように蒸気機関車 11 台を使い、土砂は 2 千万トン、工事期間は約 20 年を要し、昭和 5 年に完成します。

責任者は 36 歳の青山士(あきら)

工事の責任を任されたのは青山士という 36 歳の青年技師です。青山は明治 11 年静岡県に生まれ、単身で上京し、独学で日比谷高校、一高、東京大学へ進みます。特に、一高時代に内村鑑三の講義を聴き、門下生となり後の彼の人生に影響を与えます。卒業後、単身アメリカへわたり、パナマ運河建設の工事に参加しました。彼の凄いところは、誰のコネもなく、100 年前のアメリカのパナマに一人で渡り労働者として働きながら、最後には運河の設計に携わることになります。帰国後、荒川放水路の建設工事の指揮を執りますが、パナマからの帰国の時に持ってきた、資機材が荒川放水路工事のために大いに役に立ちます。その後、青山は新潟県の信濃川分水路工事にも参加します。



明治の時代は大きな志を持った日本人が多いのに驚きます。